

商 業

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

現行学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」を明確化するとともに、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の必要性を示している。

一方で、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（令和6年12月25日）では、以下のような、様々な課題が顕在化していることも指摘されている。

- ① 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が増加している。
- ② 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えをもち、根拠をもって明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと等に依然として課題がある。
- ③ デジタル学習基盤は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかりである。

生徒が社会で求められる資質・能力を身に付けていくためには、学校における学びの過程において、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりすることが重要である。また、単に知識を記憶する学びだけにとどまらず、身に付けた資質・能力が、様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも大切である。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善については、教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や生徒の状況等に応じて、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか、といった視点を手がかりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることが求められている。

商業科における現行学習指導要領には、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について、以下のように示されている。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、商業の見方・考え方を働かせ、企業活動に関する事象を捉え、専門的な知識、技術などを基にビジネスに対する理解を深めるとともに、ビジネスの振興策などを考案して地域や産業界等に提案し、意見や助言を踏まえて改善を図るなどの実践的・体験的な学習活動の充実を図ること。

「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。単元など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが求められる。

「主体的な学び」については、例えば、ビジネスに関する課題を設定し、様々な教科・科目等で身に付けた知識、技術などを生徒自らが活用し、解決策を考案する学習となっているか、ビジネスに関する理論について、実験などにより確認し妥当性を検討しているか、身に付けた知識、技術などを基に、新たな視点でビジネスを捉えているかなどの視点から、授業改善を図ることが考えられる。

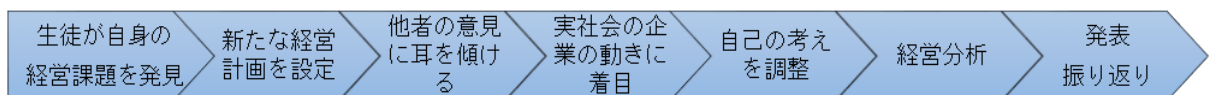
(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

商業科の学びの中で「学びに向かう力、人間性等」の目標は、「職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」と示されている。このような態度を養いつつ「主体的に学習に取り組む態度」を育成するためには、次の学習活動が大切である。

- ① 他者との討論により課題の解決策の考案などを行う学習活動
- ② 他者の考えに耳を傾け、対立する意見も踏まえて自己の考えを整理し伝える学習活動
- ③ 地域を学びの場とし、様々な人とのつながりから協働して課題解決に取り組む学習活動
- ④ 職業資格の取得やコンクールへの挑戦などを通して自ら学ぶ意欲を高める学習活動

「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、生徒が実社会との関わりに対して自ら課題を設定し、他者との関わりから学習方法を調整するなどして、粘り強く取り組む姿勢を丁寧に捉える必要がある。そのため座学・実習ともに、生徒が学習活動における意思決定の過程や課題解決に向けた行動に対して、地域とのつながりや他者の考えに耳を傾けながら自己の調整を図っているかに着目した評価の工夫が求められる。

例えば、科目「簿記」の単元「決算」で、生徒実習システム「戦略マネジメントゲーム」による実習を組み合わせた学習活動を取り入れることが考えられる。ここでの「主体的に学習に取り組む態度の評価」の工夫として、次のような学習過程で得られる結果に基づく、評価の工夫が考えられる。



評価に当たっては、生徒が記述した Google ドキュメントや Google スライドなど、クラウド上に記録された学習履歴やコメント機能を活用することにより、生徒の取組の変容や思考の深まりを時系列で把握するなど、ICT を活用した評価の見取りの工夫も必要となる。また、振り返りの過程では、相互評価やメタ認知を問う質問紙を通して、生徒が自身の学習姿勢を客観的に振り返る機会を提供する工夫も大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、生徒の行動や思考のプロセスに注目し、教員が生徒の伴走者として、ともに成長を支える姿勢のもとで実施されることが重要である。

2 指導と評価の計画例

(1) 科目「簿記」指導項目「(4) 本支店会計」の計画例

ア 単元の目標

- (ア) 本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (イ) 本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (ウ) 本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

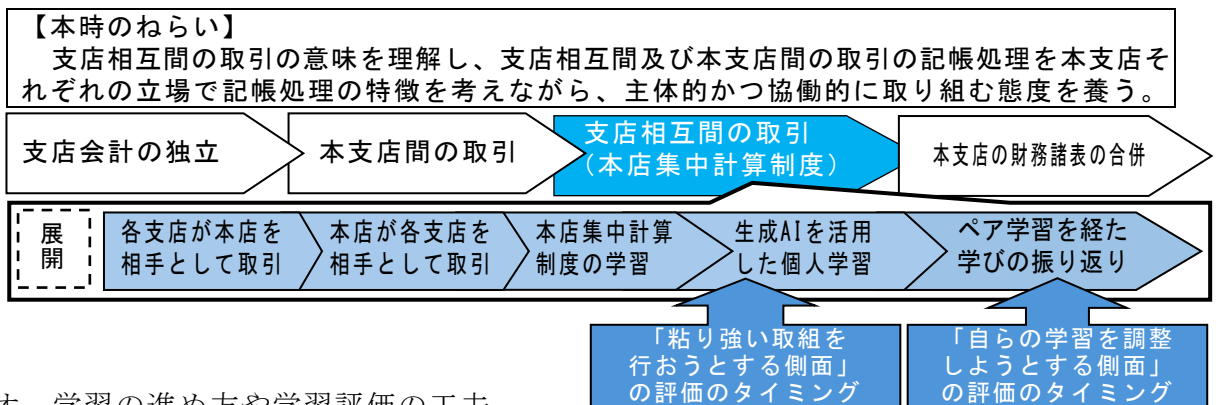
ウ 単元の指導と評価の計画（7時間） ○指導に生かす評価 ●記録に残す評価

次【時間】	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 (生徒のB規準・評価方法)
第1次【1時間】	<ul style="list-style-type: none"> ア 支店の取引 ■支店会計の独立 ■本支店間の取引 	知 思	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ・本支店間の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解し、基礎的な技術をおおむね身に付けている。 ワークシート ・本支店間の取引について、その取引内容を思考・判断し、仕訳等の手続きを通して表現する力をおおむね身に付けている。 ワークシート
第2次【2時間】	<ul style="list-style-type: none"> ■支店相互間の取引 支店相互間の取引の意味を理解し、支店相互間及び本支店間の取引の記帳処理を本支店それぞれの立場で記帳の特徴を考えながら、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・教師の説明後、「本店集中計算制度」について、指定されたキーワードを用いて自力で説明文を作成する。 ・生成AIを活用して生徒自身の説明内容の正確性を確認し、必要に応じて修正・補足を行う。 ・制度を導入しない場合の本店・支店それぞれの記帳上の影響について、立場を分けて考察し、生成AIを活用しながらワークシートに記入する。 ・ワークシートの記入後、隣の席の生徒と意見交換を行い、互いの考えを共有・比較することで、理解を深める ・まとめとして、学習を通じて得られた気付きや理解したことを記入し、振り返りを行う。 	主	●	<ul style="list-style-type: none"> ・支店相互間の取引に関する記帳処理について、基本的な仕組みや意義を理解しようとし、自らの考えを整理しながら学習に取り組んでいる。また、生成AIを活用して説明や考察を深めようとし、他者との意見交換を通じて理解を広げようとしている。 ワークシート
第3次【3時間】	<ul style="list-style-type: none"> ■まとめ ・単元テスト 	知 思	● ●	<ul style="list-style-type: none"> ・本支店間の取引、支店相互間の取引について、その取引内容を理解し、基礎的な技術をおおむね身に付けている。 単元テスト ・本支店間の取引、支店相互間の取引について、その取引内容を思考・判断し、仕訳等の手続きを通して表現する力をおおむね身に付けている。 単元テスト

<p>第4次 【4～6時間】</p>	<p>イ 本支店の財務諸表の合併 ■本支店それぞれの財務諸表の作成</p> <p>■本支店の財務諸表の合併</p>	<p>思 主</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> 本支店間の貸借対照表と損益計算書の合併について、思考・判断し、財務諸表の作成手続きを通して表現する力をおおむね身に付けている。ワークシート <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> 本支店間の貸借対照表と損益計算書の合併に関心を高め、その記帳処理の学習を進めようとしている。ワークシート
<p>第5次 【7時間】</p>	<p>■まとめ ・単元テスト</p>	<p>知 思</p>	<p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> 本支店の合併貸借対照表と合併損益計算書について、基本的な内容とその作成の基礎的な技術をおおむね身に付けている。単元テスト <p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> 本支店の合併貸借対照表と合併損益計算書について、その取引内容を思考・判断し、仕訳等の手続きを通して表現する力をおおむね身に付けている。単元テスト

エ 学習指導案（2時間目／7時間中）

本時のねらいを踏まえ、本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、支店相互間及び本支店間の取引の記帳方法を本支店それぞれの立場に立ち、自ら主体的に学ぶ必要がある。次の図は、学習指導の一部の流れを示している。



オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 評価問題等

本事例では、支店相互間及び本支店間の取引に関する記帳処理を学習するに当たり、本店・支店それぞれの立場から記帳の特徴を考察できるワークシートを活用する。個人による調べ学習を起点とし、生成AIを用いた説明内容の確認、さらにペア学習（協働学習）を通じて、理解を深める学習方法を考察する。

【ワークシート】

ワークシート

【本日の目標】
支店相互間の取引の意味を理解し、支店相互間および本支店間の取引の記帳処理を本支店それぞれの立場で記帳の特徴を考えながら、主体的かつ協働的に取り組むこと。

支店相互間の取引

1. 「本店集中計算制度」について、次のキーワードを使用して説明文を自力で作成しなさい。
キーワード：各支店、本店

2. 上記1で考えた説明文を、生成AIを使って説明内容が正しいか確認しなさい。確認後、説明で指摘されたところや説明が足りなかったところを記入しなさい。

3. もしも「本店集中計算制度」を導入しない場合の、本店と支店それぞれの記入上の影響を、生成AIを使いながら本店・支店それぞれの立場に立って記入しなさい。

○本店側の影響

○支店側の影響

4. 上記3で考えた本店、支店それぞれの影響を、隣の席の生徒と話し合い、お互い考えた内容を共有しなさい。その際、自分の考えた影響と違う場合は、記入しなさい。

○本店側の影響

○支店側の影響

5. 本日の授業を通してわかったことや気付いたことなどを記入しなさい。

a 生成AIを使って個人で調べる箇所

3. もしも「本店集中計算制度」を導入しない場合の、本店と支店それぞれの記帳上の影響を、生成AIを使いながら本店・支店それぞれの立場に立って記入しなさい。

○本店側の影響

○支店側の影響

【評価項目：粘り強い取組を行おうとする側面】
 本時の学習で得た知識をもとに、生成AIを活用して質問や要約を行いながら、自ら理解を整理・深化させている。理解が不十分な点に対して粘り強く問い、新たな視点を獲得する。その過程で得られた気付きや考えを自分の言葉で文章や発表の姿勢に表現しようとする姿勢を評価する。

b 授業の最後にまとめとして記入する箇所

5. 本日の授業を通してわかったことや気付いたことなどを記入してください。

【評価項目：自らの学習を調整しようとする側面】
 本時の授業のまとめとして、学習を通じて得た理解や気付きを記入させ、自ら把握させる。その振り返りを通じて、次回以降の学習方法や取り組み方を主体的に見直し、より効果的な学びへとつなげようとする姿勢を評価する。

(イ) 「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の工夫

a 評価のタイミング

教員は、「主体的に学習に取り組む態度」について、生徒が自ら気付いたことや、ペア学習（協同学習）を通して気付いたことをワークシートに記述させることで、学習過程における変容や成長を把握する。さらに、生成AIを活用し、生徒が自分の考えを要約・再構成したり、疑問点を生成AIに問い直すことで理解を深める姿勢を促す。生成AIとの対話を通じて得られた新たな視点や補足情報を記述に反映させることで、粘り強く学習に取り組む態度をより具体的に評価できるようにする。

b 評価方法

「粘り強い取組を行おうとする側面」の評価

評価状況	到達レベル2 おおむね満足できる	到達レベル3 十分満足できる	到達レベル1 努力を要する
粘り強い取組を行おうとする側面	支店相互間及び本支店間の取引の記帳処理について、本店・支店それぞれの立場から記帳の特徴をおおむね粘り強く考察しようとしている。また、生成AIを活用して自分の考えを要約・再構成したり、疑問点を問い直すことで理解を深めようとする姿勢が見られ、生成AIとの対話を通じて得られた新たな視点や補足情報を記述に反映させるなど、粘り強く取り組もうとしている。	支店相互間及び本支店間の取引の記帳処理について、本店・支店それぞれの立場から記帳の特徴を粘り強く考察し、論理的かつ確に整理している。また、生成AIを活用して自分の考えを要約・再構成したり、疑問点を深く掘り下げること理解を一層深めようとする姿勢が見られ、生成AIとの対話を通じて得られた新たな視点や補足情報を自分の言葉で的確に記述に反映させるなど、粘り強く取り組もうとしている。	支店相互間及び本支店間の取引の記帳処理について、本店・支店それぞれの立場から記帳の特徴を粘り強く考察する姿勢が十分に見られず、理解や記述に不正確な点がある。また、生成AIの活用も限定的であり、自分の考えを要約・再構成したり、疑問点を解決するために粘り強く取り組もうとする姿勢が見られない。 【手立て】 つまづいている生徒には、机間巡視でヒントを与え、考察すべき事項に気付かせる。また、生成AIとの対話例を提示し、質問の仕方や要約の活用方法を具体的に示すなどし、イメージを持たせる。

<ワークシート 項目3の記載内容>

○ おおむね満足できる（到達レベル2）の記述例

3. もしも「本店集中計算制度」を導入しない場合の、本店と支店それぞれの記帳上の影響を、生成AIを使いながら本店・支店それぞれの立場に立って記入しなさい。

○本店側の影響

本店は、支店ごとの取引内容を個別に確認し、集計する必要があるため、業務量が増える。生成AIを使って調べたところ、支店との情報共有がスムーズでないと、決算処理に時間がかかる可能性があることがわかった。また、記帳ミスの確認や修正にも手間がかかる。

○支店側の影響

支店は、自分たちで記帳を行う責任が生じる。生成AIを活用して調べた結果、記帳の正確性や会計知識が求められることが分かった。記帳を通じて自店の経営状況を把握しやすくなるが、本店との連携が不十分だと、情報のズレが起きる可能性もある。

到達レベルの考え方

生成AIを活用しながら、本店・支店それぞれの立場に立って記帳上の影響を考察しようとする姿勢が見られる。課題の指示におおむね沿っており、内容も基本的な理解に基づいて記述されている。自分の意見を調整しながら記述しようとする努力も見られるが、考察の深さや具体性にはやや乏しいため、到達レベル2とした。

○ 十分満足できる（到達レベル3）の記述例

3. もしも「本店集中計算制度」を導入しない場合の、本店と支店それぞれの記帳上の影響を、生成AIを使いながら本店・支店それぞれの立場に立って記入しなさい。

○本店側の影響

本店は、各支店が独立して記帳を行うことで、企業全体の財政情報を集約する際に、情報の整合性やタイミングのズレに対応する必要がある。生成AIを使って調べた結果、支店ごとの会計処理方法や勘定科目の使い方に差異があると、連結処理や決算整理に時間と労力がかかることが分かった。また、支店からの報告を待つ必要があるため、迅速な経営判断が難しくなる可能性もある。

○支店側の影響

支店は、自らの取引を独立して記帳することで、日々の業務に対する責任が増す。生成AIを活用して調べたところ、記帳の正確性や会計知識の習得が不可欠であることが明らかになった。一方で、支店ごとの収支状況をリアルタイムで把握できるため、地域特性に応じた柔軟な経営判断が可能になるという利点もある。ただし、本店との連携が不十分な場合、情報の不一致や報告遅延が生じ、全社的な意思決定に影響を及ぼすリスクもある。

到達レベルの考え方

生成AIを活用しながら、本店・支店それぞれの立場に立って制度未導入時の影響を論理的に考察している。記述には具体的な事例や背景が含まれており、情報の整合性や業務負担、経営判断への影響など、実務的な視点も踏まえられている。自分の意見を根拠に基づいて展開しようとする姿勢が見られ、説得力のある構成となっているため、到達レベル3とした。

「自らの学習を調整しようとする側面」の評価

評価	到達レベル2	到達レベル3	到達レベル1
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
自らの学習を調整しようとする側面	学習した内容を踏まえて、支店相互間及び本支店間の取引の記帳処理を本支店それぞれの立場で記帳の特徴を考察し、自らの意見をおおむね調整しようとしている。	学習した内容を踏まえて、支店相互間及び本支店間の取引の記帳処理を本支店それぞれの立場で記帳の特徴を考察し、自らの意見を十分に調整しようとしている。	支店相互間及び本支店間の取引の記帳処理を本支店それぞれの立場で記帳の特徴について、自分の意見を調整することができない。 【手立て】ワークシート返却時に、よい例を積極的に取り上げるとともに、生徒には個別に指導し、今後に生かす。

<ワークシート 項目5の記載内容>

○ おおむね満足できる（到達レベル2）の記述例

5. 本日の授業を通してわかったことや気付いたことなどを記入しなさい。

本店と支店のそれぞれの立場で考えることができた。記帳方法や決算処理などの業務負担も考えることができた。

到達レベルの考え方

学習活動で得られた知識を組み合わせ、本支店それぞれの立場での意見をおおむね調整しようとしているため、到達レベル2とした。

○ 十分満足できる（到達レベル3）の記述例

5. 本日の授業を通してわかったことや気付いたことなどを記入しなさい。

本店と支店のそれぞれの立場で考えることができた。記帳方法や決算処理などの業務負担や、本支店がそれぞれ独立性の運営や自立的な運営なども考えることができた。

到達レベルの考え方

具体的に本支店の立場で考えることができ、学習活動で得られた知識を組み合わせ、本支店それぞれの立場での意見を十分に調整しようとしているため、到達レベル3とした。

(2) 科目「簿記」指導項目「(3) 決算」の計画例

本事例は、「売上原価の算定」「貸倒れの見積り」「減価償却」を1つの単元として扱うこととする。

ア 単元の目標

- (7) 決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (4) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (9) 決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。	決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

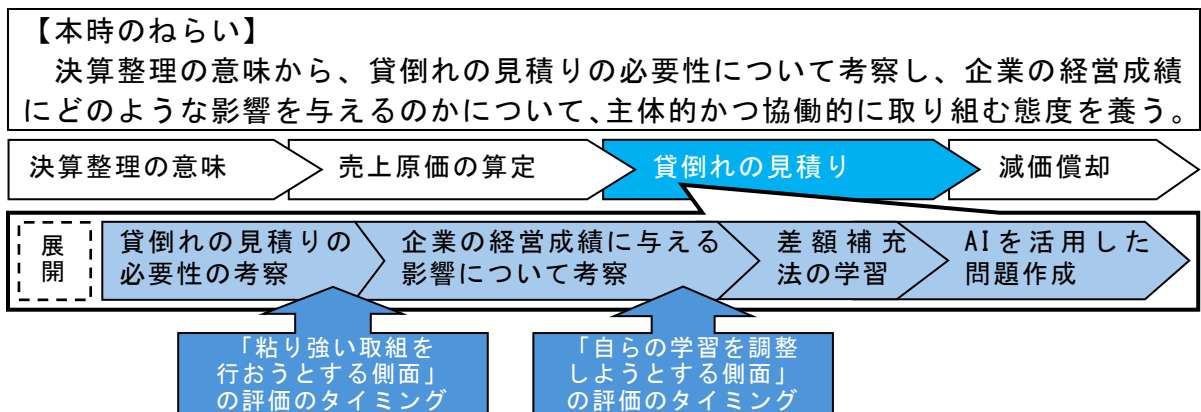
ウ 単元の指導と評価の計画（4時間） ○指導に生かす評価 ●記録に残す評価

次【時間】	ねらい、学習活動等	重点	記録	備考 (生徒のB規準・評価方法)
第1次 【1、2時間】	<p>ア 決算整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ■決算整理の意味 ■売上原価の算定 <p>決算整理の意味と売上原価の構造について理解するとともに、売上原価の計算を身に付けている。</p>	知	●	<ul style="list-style-type: none"> ・決算整理の意味を理解し、売上原価の計算が身に付いている。 <p>ワークシート</p>
第2次 【3時間】	<p>■貸倒れの見積り</p> <p>決算整理の意味から、貸倒れの見積りの必要性について考察し、企業の経営成績にどのような影響を与えるのかについて、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売掛金の意味について確認し、売掛金を全て回収できない場合はどのような処理をするのか振り返る。 【ワークシート(1)(2)(3) (Googleスライド)】 ・教員の説明から貸倒れの見積りを理解する。 <p>課題① 貸倒れの見積りの必要性について、決算整理の意味を踏まえて考察しよう。</p>	主	●	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りの必要性について考察し、おおむね粘り強く取り組もうとしている。 <p>Googleフォーム(4)-1 ワークシート(4)-2</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・決算整理の意味から、貸倒れの見積りの必要性について考察し、意見を送信する。 【Googleフォーム(4)-1】 ・意見が集約されたGoogleスプレッドシートをもとにペアの人と話し合い、意見を修正する。 【ワークシート(4)-2 (Googleスライド)】 ・教員の説明から、貸倒れの見積りの計算方法と仕訳を理解する。 <p>課題② 貸倒れの見積りが企業の経営成績に与える影響について考察しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸倒引当金を多く設定した場合、企業の経営成績にどのような影響を与えるのかについて考察し、意見を送信する。【Googleフォーム(5)】 ・意見が集約されたGoogleスプレッドシートで意見を共有する。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・貸倒れの見積りが企業の経営成績にどのような影響を与えるかについて考察し、意見を送信する。【Googleフォーム(6)-1】 ・意見が集約されたGoogleスプレッドシートをもとに、ペアの人と話し合い、新たに気付いた点や考えが深まった点等を踏まえ、再度自分の意見をまとめる。 【ワークシート(6)-2(Googleスライド)】 ・差額補充法について自ら調べ、貸倒引当金残高がある場合の貸倒れの見積りの仕訳を理解する。 【ワークシート(7) (Googleスライド)】 ・生成AIを用いて、貸倒れの見積りの問題を作成し、問題に取り組む。生成AIが間違った解答をした場合には、正しい解答に導く。【ワークシート(8) (Googleスライド)】 	主	<ul style="list-style-type: none"> ● 他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りが企業の経営成績に与える影響について考察し、新たな気付きから考えを深め、自らの意見をおおむね調整しようとしている。 Googleフォーム(6)-1 ワークシート(6)-2
第3次 【4時間】	<p>■減価償却</p> <p>減価償却の方法を比較し、より合理的な方法や財務状況にどう影響するかについて考察し、科学的な根拠に基づいて課題に対応している。</p>	思	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の減価償却方法を比較し、合理的な方法や財務状況へ影響するか考え、表現している。 ワークシート

エ 学習指導案（3時間目／4時間中）

本時のねらいを踏まえ、貸倒れの見積りの必要性や企業の経営成績に与える影響について考察するには、前時に学んだ決算整理の意味を理解し、他者との協働を通じて考察する必要がある。次の図は、学習指導の一部の流れを示している。



オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) ワークシート

Googleスライドでワークシートを作成し、GoogleフォームやGoogleスプレッドシートのリンクを貼り付け、意見の集約や共有ができるようにした。

a 個人思考（Googleフォーム）

全体で共有ができるように、Googleフォームに個人の意見を送信する。

<Google スライド>

(4)-1 貸倒れの見積りは、なぜ、必要なのか？
こちらをクリックし、「①」に意見を入力して送信してください。

(6)-1 貸倒れの見積りが、企業の経営成績にどのような影響を与えるのか？
こちらをクリックし、「③」に意見を入力して送信してください。

Google フォームのリンクを挿入し、意見を送信させる

<Google フォーム>

①貸倒れの見積りは、なぜ必要だと思いますか？決算整理の意味を踏まえて意見を述べてください。
回答を入力

③貸倒れの見積りが、企業の経営成績にどのような影響を与えますか？意見を述べてください。
回答を入力

生徒は意見を入力し、送信する

b 全体共有（Googleスプレッドシート）

Googleスプレッドシートに集約された意見を全体で共有し、他者の意見から新たに気付いた点や考えが深まった点についてワークシートにまとめる。生徒の記述から、「主体的に学習に取り組む態度」を見取る。

Google スプレッドシートのリンクを挿入し、他者の意見を共有させる。

<Googleスライド> 課題①の見取り

④-2 貸し倒れの見積りは、なぜ必要なのか？
みんなの意見を確認し、ペアと話し合いながら、再度自分の意見を記入してください。

<意見が集約されたGoogleスプレッドシート>

②貸倒引当金を多く設定した場合、企業の経営成績にどのような影響を与えるか？	③貸し倒れの見積りが、企業の経営成績にどのような影響を与えますか？
費用が増える	
利益が減る	
リスク管理がしっかりしていて、安全な会社だと思われる	
	貸し倒れを見積もると、費用が増えるから利益が減ってしまう
	正しい利益を出すことができる
	将来の損失のこともちゃんと考えているから、取引先から信用してもらえる

<Googleスライド> 課題②の見取り

⑥-2 貸し倒れの見積りが、企業の経営成績にどのような影響を与えるのか？
みんなの意見を確認し、ペアと話し合いながら、新たに気付いた点や考えが深まった点等を踏まえ、再度自分の意見を記入してください。

生徒は他者の意見を確認し、ペアと話し合いながら再度意見をまとめる。

c 生成AIの活用

本事例では、生徒が自ら問題を設定し、解答や解説を得ることができる対話型のサポート役として生成AIを活用した。

例題を自動生成して練習機会を増やすことが可能であるとともに、生徒が自ら作成した問題の添削や解説も可能なため、主体的に疑問をもち探究しながら学習を進められる。また、学習進度や理解度に応じて生成AIが最適なフィードバックや課題を提示することで、自らの学習を調整することができるため、主体的に学びを深めることができる。

<生成AIを活用した場面>

貸し倒れの見積りの仕訳の問題を作って

了解です！貸し倒れの見積りに関する仕訳問題を作成しますね。

【問題】

あなたの会社は、売掛金1,000,000円のうち、過去の経験から5%が貸し倒れになると見積もっています。貸倒引当金の繰入れ仕訳を作成してください。

解説

- 売掛金1,000,000円 × 5% = 50,000円を貸倒引当金として計上する。
- 貸倒引当金繰入（費用）を借方に、貸倒引当金（引当金）を貸方に記入。

貸倒引当金は簿記の五つの要素に当てはまらないの？

いい質問ですね！

貸倒引当金は「簿記の五つの要素」(資産・負債・純資産・収益・費用) のどれに当てはまるか、迷う人が多いです。

貸倒引当金は「資産のマイナス勘定（控除勘定）」にあたる

- 資産に直接含まれるわけではないですが、資産の評価を減らすための控除勘定です。
- 売掛金などの資産の金額から貸倒引当金の金額を差し引いた**純額表示**で財務諸表に表れます。

生徒が指示を入力する。

生成AIの解答・解説から、不明な点や間違っている解答について、対話型で解決をしていき、学びを深める。

(4) 主体的に学習に取り組む態度の学習評価

a 「粘り強い取組を行おうとする側面」の評価

評価	到達レベル2	到達レベル3	到達レベル1
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
粘り強い取組を行おうとする側面	他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りの必要性について考察し、おおむね粘り強く取り組もうとしている。	他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りの必要性について考察し、多角的な視点から十分粘り強く取り組もうとしている。	貸倒れの見積りの必要性について考察が不十分であり、粘り強く取り組もうとする姿勢が見られない。 【手立て】他者のよい意見を積極的に取り上げるとともに、他者の意見から受ける影響について個別に指導する。

<ワークシート (4)-2 の記載内容>

○ おおむね満足できる（到達度レベル2）の記述例

・ 他者の意見を見て、**決算整理の意味をもう一度考え**、正しい収益や費用の額を示すために必要なことだと思った。

到達レベルの考え方
他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りの必要性について**考え直す様子が見られ、おおむね粘り強く取り組もうとしている**ため、**到達レベル2**とした。

○ 十分満足できる（到達度レベル3）の記述例

・ 貸倒れの見積りをしないほうが費用が増えなくてよいと思ったけれど、一会計期間の正しい利益を出すためには大切なことであり、**企業の経営を長期的に考えると必要なことだ**と思った。

到達レベルの考え方
他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りの必要性について考察し、**多角的な視点から十分粘り強く取り組もうとしている**ため、**到達レベル3**とした。

b 「自らの学習を調整しようとする側面」の評価

評価	到達レベル2	到達レベル3	到達レベル1
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
自らの学習を調整する側面	他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りが企業の経営成績に与える影響について考察し、新たな気付きから考えを深め、自らの意見をおおむね調整しようとしている。	他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りが企業の経営成績に与える影響について考察し、取引先や銀行等の利害関係者からの見え方も含めて新たな気付きから考えを深め、自らの意見を十分調整しようとしている。	貸倒れの見積りが企業の経営成績に与える影響について、自らの意見を調整しようとする姿勢が見られない。 【手立て】よい意見を積極的に取り上げるとともに、他者の意見から影響について個別に指導する。

<ワークシート (6)-2 の記載内容>

○ おおむね満足できる（到達度レベル2）の記述例

・ 利益が減ってしまうことしか考えていなかったが**正しい収益や費用の額を示すことができる**ということに気付いた。

到達レベルの考え方
他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りが企業の経営成績に与える影響について考察し、**新たな気付きから考えを深め、自らの意見をおおむね調整しようとしている**ため、**到達レベル2**とした。

○ 十分満足できる（到達度レベル3）の記述例

・ 貸倒れの見積りを正しく行うことで、費用が増えるというマイナスなことだけではなく、正しい利益を示すことができることが分かった。
・ 利益の増減だけではなく、**企業の状況を正確に表し、外部からの信用確保にも繋がる必要不可欠なものだと**気付いた。

到達レベルの考え方
他者の意見を踏まえて、貸倒れの見積りが企業の経営成績に与える影響について考察し、**取引先や銀行等の利害関係者からの見え方も含めて新たな気付きから考えを深め、自らの意見を十分調整しようとしている**ため、**到達レベル3**とした。